

宮内彩の New Zealand Style no.12

Liz Mitchell

「オスカーの授賞式にはリズ・ミッチェルの服を」と言ったのは「鯨に乗った少女」で主演女優賞にノミネートされたケイシャ・キャッスル・ヒューズ。その言葉の通り、ニュージーランド人にとって晴れの日の装いの第一人者はリズ・ミッチェルをおいて他にない。カジュアルでリラックスしたスタイルが主流のNZデザイナーの中でも、唯一と言って良い「正当派クチュールブランド」だ。

リズが洋服の世界に入ったのは、演劇やオペラの美術の仕事から。「ファッションは表面的すぎるような気がして、仕事としては興味がありませんでした。演劇の舞台装置や衣装の方が、インテレクチュアルに思えたのです」と話す。舞台上で経験を積んだ後、TVNZの衣装部の仕事を始めたのは20年前のこと。ファ

ッション界を舞台とした番組「グロス」を手がけ、多くのファッションピープルやセレブリティとのつながりができた。「この頃から、個人的にイブニングドレスの制作なども初めました」。仕事で知り合ったセレブたちの、プライベートの注文が入るようになったからだ。「しばらく、衣装の仕事と両立していたのですが、10年前に『やっぱり私はファッションが好き』だという事に気づき、自分の名前ブランドを始めることにしたの

です」。

その頃には、リズ・ミッチェルの名前は既に業界では知れ渡っていた。「ショートランドストリート」など人気番組を手がけ、多くの女優やセレブを友人に持ち、彼女達のウェディングドレスなども手がけるようになっていた。ブランドを立ち上げてからの過去10年間は、ビジネスを着実に伸ばし、特にウェディングに関しては、NZで右に出る者はいない。

「ウェディングドレスを注文されると、花嫁の家族や友人達とも度々接するこ

とになります。数ヶ月にわたり、晴れの日の為に打ち合わせや仮縫いなどを重ね、ファミリーやブライダルパーティー全員のドレスを手がけることも度々です。そして、結婚式の後も、その女性達の多くはリズ・ミッチェルの顧客となって下さるのです」。リズ本人がコンサルテーションを施してくれるのだから、花嫁もお姫様になったような気分には違いない。パリのオートクチュールブランドでは、よほどのセレブでもない限り、ウェディングドレスを注文したくらいでデザイナー本人と話をすることなどないものだ。

また、忙しいエグゼクティブな女性たちを顧客に持つだけに、パーソナルなサービスを得意としている。買い物に時間をかけられない女性が、リズの元でワー

AFTRE 5

プリントのホルターと、サテンのスカートでフェミニンに。

スカート \$750
ホルター \$650

STUDY

プリントのシャツとカーディガンで、フェミニンなトラッドスタイル。

シャツ \$360
カーディガン \$550
スカート \$599

WEEKEND

ゆったりとしたカーディガンでリラックスして。

ブラウス \$585
カーディガン \$650
スカート \$590

DINNER

白黒ツイードのジャケットは裏地がポイント。

ジャケット \$1300
スカート \$750
ブラウス \$585

WEDDING

晴れの日の主役は、映画スターになった気分です。

ウェディングドレス \$4500

GALA

ガラパーティーには、ゴージャスなスカートとシンブルなトップで若々しく。

メリノセーター \$330
ロングスカート \$2950

WORK

シャネルを思わせる、今トレンドのツイードスーツでエグゼクティブに。

ジャケット \$950
スカート \$599

WORK

ウェストのベルトとコサージュで今年らしさを。

ジャケット \$1050
ベスト \$390
スカート \$650
ブローチ \$80



ドロブを一式揃えてもらうことも少なくない。ビジネスの6割はmade to measure(注文服)、そのおよそ半分がウェディング関係のものだという。ケイシャがオスカー賞にノミネートされた時も、彼女の旅のワードローブの為に、ピンクのイブニングの他にも何点か手がけている。「ケイシャとはノミネーション以前にロスで一度会っていて、面識がありました。後で聞いた話ですが、以前からケイシャとお母さんの間で、『何かの時にはリズ・ミッチェルにドレスを頼もう』と話していたそうです。オスカー賞の訪米の時には、彼女のために2週間の間に、6-7点の洋服を作りました」。

そんな顧客のニーズに答えるサービスを得意とするリズ。それまで年齢層の高いイメージがあったブランドも、13歳のケイシャが彼女の服を着たことで、若い女性たちの間でも人気が急上昇して

いる。

10月に行われたNZファッションウィークでは「Wallis in Wonderland」と名付けられたコレクションを発表した。20年代のグラマラスな時代、エドワード7世とウォリス・シンプソンとのロマンスなどからインスピレーションを受けている。英国調のツイードやアーガイル、豪華なスワロフスキーのクリスタルなどを使用

したり、30年代や40年代のシルエットやテイラリングを現代的に甦らせたものが主流だ。

イブニングに定評のあるリズだが、今年はあるえて、ディウエアに重点とおいたと言う。彼女のエグゼクティブな顧客達が仕事や社

交など全てのオケーションで着る服を用意している。今後クライストチャーチやウェリントンにも出店する準備をしているため、プレタポルテを拡大する予定だ。の映画界。NZ女優が世界の華やかな舞



Profile photo Yui Hori

宮内彩 東京生まれ。西町インターナショナルスクールを経て、スイス、ル・ロゼ高校、米タフツ大学卒業。帰国後、パリ・ミラノ等世界のコレクションを取材。雑誌・新聞・テレビ・ラジオ等でファッション・コラムニストとして活動。オークランド在住の中村副氏と結婚のため、2000年より生活の拠点をNZに移動。01年、長男・章人君。02年、次男・天人君誕生。子育ての合間を見て、旅・食・住等ライフスタイル全般のコラムニストとして英語及び日本語で執筆活動を続けている。著書は近代文藝社「おしゃれのエッセンス」「おしゃれのエッセンス旅コレクション」(母・大内順子と共著)等。NZでの生活のエッセイが載っているホームページは www.ouchi-junko.com